



2月1日現在在籍数 320名

## 気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、  
かしこく、やさしく、たくましく  
生きる児童の育成

令和5年度 学校だより NO.10

令和6年2月1日（木）発行

## 雪かき

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

先週の1月24日（水）から25日（木）にかけて、日本列島は、この冬最大の寒波の影響で、各地で大雪となりました。当地方も、久しぶりの大雪に、各家庭では雪かきの対応に追われたことと思います。

25日の朝、学校の雪かきをするためにいつもより少し早めに自宅を出ました。学校までの私の通勤路は、子供たちの通学路にもなっています。子供たちがいつも歩いている歩道を見てみると、なんと、すでに雪かきがしてありました。（いつ、誰がやってくれたんだろう…）と思いながら、学校に向かいました。

学校に到着すると、教頭先生を始め、数名の先生がすでに雪かきを行っていました。急いで着替え、雪かきに参戦です。「さあ、やるぞ」と意気込んでみたものの、ちょっと雪をかくとすぐに疲れてしまう自分に驚き、加齢による筋力の衰えを再認識させられ、がっかりしたところです。それでも、（猫の手よりは役に立つだろう）と作業を続けました。

作業途中、子供たちの通学路にどのくらい雪が残っているかが不安だったので、子供たちがいつも歩いて来る通学路の様子を確認に行きました。学校周辺は、職員が行ったのですが、平貝・牧沢方面から歩いてくる子供たちの通学路（「パナック・ささき」さんの向かい側の歩道）も、すでに雪かきがしてありました。職員にその場所の雪かきを行ったかを確認すると、学校ではやっていないとの返答。（地域の方がやってくれたんだろうなあ）と思い、相手も分からず、ただただ心の中で感謝をしたところです。



【平貝・牧沢方面の通学路】

### 「労働の本質は、雪かきにある」

先日、ある研修会で他校の校長先生から教えていただいた言葉です。この言葉は、フランス文学者で武道家の内田 樹（たつる）さんの言葉だそうです。心に残った言葉だったので、後日、調べてみると、以下のような注釈をしている Web ページがありました。

雪かきをする人は、雪かきをしているところを多くの人から目撃されることはありません。人々が仕事に行く時には、既に雪かきは終わっているからです。そして、そのきれいになった道をみんな当たり前のように歩いて出勤します。誰かが雪かきをしなかったら、凍り付いた雪に足を滑らせて転ぶ人がいるかもしれません。

つまり、雪かきは誰かを喜ばすためにするのではなく、その道を通る人たちが、いつものように普通に歩けるようにとやっているのです。誰も見ていないし、誰からも賞賛されることはなくても、その作業を誰かがやらねばならない。そういう人がいることで、実は社会はうまく回っているのだ、とのことです。

今の世の中は、「そう行動することは、得をするか、損をするか」を基準にして回っていることが多いようで、自分を振り返ってみても雪かきをしているようなことは思い浮かばず、恥ずかしい限りです。

（「ちょこっと社長のよもやま話」より抜粋）

この文章を読み、（全くそのとおりだなあ）と気持ちを新たにしました。

私たちは、直接自分に関わりのある人だけでなく、自分たちには見えない、気付いていない様々な方々の尽力のおかげで、当たり前のように生活できていることに、改めて感謝したいと強く思いました。



【雪かきをする6年生】

最後に、今回の雪かきでうれしい出来事がありました。それは、4名の6年生が「雪かきします。」と自分から申し出て作業をしてくれたことです。職員の雪かき後だったのであまり雪はありませんでしたが、その思いがとてもうれしかったですし、そういう思いを積み重ねていくことで、内田樹さんの言葉にあるように、将来、見えないところで誰かを支えるすてきな心の持ち主に、子供たちを成長させていくんだろうなあと思いました。